

平成30年度第1回尾張旭市総合教育会議 会議録

1 開催日時

平成30年6月27日(水) 午後3時30分から午後5時まで

2 開催場所

尾張旭市役所3階 講堂2

3 出席者

市長 水野 義則
 教育長 河村 晋 教育委員 杉浦 ますみ
 教育委員 大川 将史 教育委員 大岩 裕泰
 教育委員 山本 真依子

4 傍聴者数

0名

5 出席した事務局職員

教育部長 萬谷 久幸 管理指導主事 川本 幸則
 教育行政課長 大津 公男 教育行政課長補佐 加藤 貴之
 企画部長 若杉 博之 企画課長 竹内 元康
 企画課長補佐 鈴木 清貴 企画課主事 澤田 涼
 こども子育て部長 阿部 智晶 こども未来課長 松野 宏美
 こども未来課係長 久野 善之

6 議題

放課後の居場所づくりについて

7 会議の要旨

企画部長	<p>本日は、大変お忙しい中、お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、ただ今から、平成30年度第1回尾張旭市総合教育会議を開催させていただきます。</p> <p>それでは、次第に沿って会議を進めさせていただきます。</p> <p>始めに、この会議を招集させていただきました市長より挨拶を申し上げます。</p>
市長	<p>お忙しい中、平成30年度第1回目の総合教育会議にお集まりをいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>昨年度の総合教育会議の取組としては、尾張旭市版コミュニティスクールに関する議題を中心に話し合い、名称を「あさひスマイルコミュニティ」に決定しました。学校や地域住民の御協力のもと、「あさひスマイルコミュニティ」が広まり、子供の居場所づくりに貢献していければと考えております。</p> <p>今年度は、主に子供の放課後の居場所づくりについて、議論していき</p>

	<p>たいと思い、本日の議題を挙げさせていただきました。子供の放課後の居場所づくりの取組として、厚生労働省では、「子どもの学習支援事業」、文部科学省では、「地域未来塾」を推進しており、本市でも同様の取組の推進を図ってまいります。子供たちが自分の居場所だと思ってもらえる場所を作っていきたいと考えておりますので、今年度の会議でも忌憚のない意見をいただきたいと思ひます。</p>
企画部長	<p>それでは、議題に入りますが、この会議の進行は、市長が務めますので、よろしくお願ひいたします。</p>
市長	<p>それでは、これより、私が会議を進めてまいりますので、よろしくお願ひします。</p> <p>本日の議題は、次第のとおり1つでございます。</p> <p>それでは、次第の「2議題」の「放課後の居場所づくりについて」について事務局から説明をしてください。</p>
事務局 (こども未来課)	<p>放課後の居場所づくりに関する尾張旭市の取組状況について、説明いたします。</p> <p>国の社会保障審議会の放課後児童対策専門部会では、主な放課後の居場所づくりに関する施策として、放課後児童クラブ、放課後子供教室、児童館、プレイパーク、こどもの生活学習支援、子供の学習支援、放課後等デイサービスの7つを示しています。今回は主に、この中の放課後児童クラブ、放課後子供教室について議論していただければと考えております。</p> <p>放課後児童クラブは、共働き家庭等の留守家庭の子供を対象とした取組で、本市の場合、公立は児童クラブ、民間は学童クラブと呼び方が異なります。本市では、児童クラブを全小学校区で実施しており、月額6,000円で18時、一部は19時まで利用することができます。また、学童クラブは、市内の6小学校区で実施しており、月額3,000円から18,000円で19時、一部は20時まで利用することができます。</p> <p>放課後子供教室は、全ての児童を対象とした取組です。本市では、城山小学校区において、平成21年度から平成22年度までの期間で試行的に実施しました。実施した結果、放課後子供教室は児童館事業として引き継ぎ、小学校の放課後対策は児童館と児童クラブで提供していくとの方針を定めました。近隣市町の中で、放課後子供教室を実施していない自治体は、本市のみとなっております。</p> <p>現状の課題は、平成26年度に策定された「放課後子ども総合プラン」への対応です。</p> <p>「放課後こども総合プラン」では、平成31年度までに「放課後児童クラブについて、約30万人分を新たに整備すること」、「全小学校区</p>

で一体的に又は連携して実施し、うち1万か所以上を一体型で実施すること」を国全体の目標としています。目標を達成するための具体的な推進方策として、「学校施設を徹底活用した実施促進」、「一体型の放課後児童クラブ及び放課後子供教室の実施」、「放課後児童クラブ及び放課後子供教室の連携による実施」の3つの方策を掲げています。

これらの方策を国は示しておりますが、市町村の状況によっては、どのように方策を進めるのかが異なってくる部分があると考えています。

本市においても、課題が多々あります。

子供教室を実施するとなった場合、民間学童クラブとの共存を検討する必要があります。他市の状況を見聞きしますと、保護者は利用料が安価なものを求める傾向があるので、ほぼ無料の子供教室の実施に伴い、利用料が高いと言われる民間学童クラブの運営にどのような影響が想定されるのかも踏まえる必要もあります。

また、小学校の余裕教室の徹底的な活用が方策にあります。本市では、子供の人口は徐々に減少しているものの、まだまだ一定数の人数がいますので、小学校の教室に余裕が生じているとは言えない状況があります。

説明は以上です。

市長	ただ今、ご説明しました内容につきまして、質問や意見はございますか。
大川委員	「放課後子ども総合プラン」の趣旨・目的に記載されている「次代を担う人材」について、詳しく教えていただきたいです。
事務局 (こども未来課)	生活困窮者世帯やひとり親世帯では、学力だけでなく生活習慣も身につけられない等、家庭環境により子供の健全な育成に影響が出ています。家庭環境に関わらず、全ての子供が次の時代を担っていく人材へと成長していけるような放課後の居場所づくりが「放課後子ども総合プラン」の趣旨・目的となっています。
大岩委員	児童クラブの月額利用料6,000円については、一人当たりの料金でしょうか。また、月額6,000円に設定した根拠を教えてください。
事務局 (こども未来課)	一人当たりの料金になります。子供を複数人預けた場合は、料金が変わります。 月額6,000円の根拠については、基本的には、人件費から換算して、算定されたものです。
大岩委員	児童クラブを多く利用される家庭に対しては、料金を安くするといった取組も面白いと思います。 プレイパークについては、尾張旭市で取り組まれているのでしょうか。

	か。
事務局 (こども未来課)	本市では、取り組んでいません。
杉浦委員	城山小学校区で試行的に実施していた放課後子供教室を継続しなかった理由について、教えていただきたいです。
事務局 (こども未来課)	年間約300万円の委託料がかかり、全校区に広げていくのが困難であったことと、放課後子供教室で実施していた、けん玉遊び等の取組は児童館でも行っていたため、児童館に力を入れた方が費用対効果が高いと判断し、継続しませんでした。また、放課後子供教室に関するアンケート調査も行っており、利用率等の調査結果も考慮した上で、継続しない判断をしています。
市長	当時の子供教室の配置場所では、子供たちが気軽に大声で話すことが難しい雰囲気がありました。また、城山小学校から児童館までの距離が近かったため、小学校内で放課後子供教室を行うよりも児童館で行った方が気軽に話せて、良い環境が整っていたことも、継続しなかった要因の1つだと思います。
市長	現在と今後の小学校の余裕教室について教えてください。
事務局 (教育行政課)	現状は、小学校の教室に余裕が生じているとは言えません。 今後については、少子化を考慮すると、余裕教室は増加していくものと考えております。
杉浦委員	余裕教室を活用して放課後子供教室に取り組むのは良いことだと思います。 放課後子供教室を実施する場合、民間学童クラブとの共存が難しいと説明にありましたが、他市町村では共存できているところもあります。他市町村では、どのように共存しているのでしょうか。
事務局 (こども未来課)	他市町村の放課後子供教室の多くは、休日に開設していない教室、平日の利用時間が16時から17時までに終わる教室となっています。休日に開設している民間学童クラブや平日の利用時間が放課後子供教室よりも長い民間学童クラブを利用したいという市民の需要はあると思いますので、休日利用と長時間利用の有無があり、共存できていると考えています。
市長	市が放課後子供教室を行うことによる民間学童クラブへの影響はあると思います。他自治体の動向を見ても、安価に利用できる施設に子供を預ける傾向もあります。利用時間の長さよりも費用面を考慮する家庭も多くいると思います。
山本委員	定員割れしている児童クラブはあるのでしょうか。
事務局	現状はありません。

(こども未来課)	定員の考え方について補足させていただきますが、週に2日利用される子供、週に3日利用される子供の日程に重複がない場合は、定員の数が1人のままになります。このため、定員以上の人数が利用している場合もあります。
教育長	<p>城山小学校区で行っていた放課後子供教室は、手厚いサービスであり、市民からの評判はよかったです。</p> <p>現在は、児童クラブと子供教室を一体型で行っている自治体は増えてきています。また、全国の小学校約22,000校のうち約17,000校が小学校内で放課後子供教室を行っています。尾張旭市は、全国的にみて遅れを取っているように思えます。</p> <p>小学校内で放課後子供教室を実施できた方がよいのではないかと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>いただいた意見を踏まえまして、担当課において引き続き検討を進めます。</p> <p>折角の機会ですので、何か他に意見交換したいことはありますでしょうか。</p>
委員	(特になし)
市長	以上で本日の議題はすべて終了いたしました。次第の「3 その他」ですが、事務局から何かありますか。
事務局 (企画課)	<p>本会議の今後の予定について報告させていただきます。</p> <p>第2回会議につきましては、今回に引き続き、放課後の居場所づくりについて、と併せて、教育大綱の見直し等をテーマに、10月頃に開催予定です。</p> <p>事務局からは以上となります。</p>
市長	<p>それでは、これをもちまして、平成30年度第1回尾張旭市総合教育会議を終了します。</p> <p>ありがとうございました。</p>